

ほうじん しょうがいしゃ しよくぼさんか
NPO法人 障害者の職場参加をすすめる会(代表理事 鈴木 操)
さいたまけんこしがやしひがしこしがや すがびる
埼玉県越谷市東越谷1-1-7須賀ビル101 Tel-Fax 048-964-1819 職場参加ニューロー世一緒内
E-mail shokuba@deluxe.ocn.ne.jp HP http://www.5b.biglobe.ne.jp/~yellow/

第48回 共に働くまちを拓くベンキョウ会をやりました 「お葬式のサポーターってなんだ？」

話し手・佐藤 春江さん (NPO法人埼玉葬送サポートセンター代表)



今年度「仕事おこし懇談会 in こしがや」で一緒にいるワーカーズコレクティブの佐藤さんにお話ししていただきました(9月26日・越谷市中央市民会館)。以下、あらまし。

2009年6月から葬儀のサポート事業をやっている。毎年50件位の実績。親しい人が亡くなる時、心の準備がなく葬儀という形になることが多いため、葬儀屋さんサイドでことが運ばれてしまう。それに対して喪主さんサイドに立って仕事をしている。

葬儀は、残った自分が現実に立ち向かう心構えのため。どんな葬式がいいか、聞いてくれる葬儀屋さんがよい。急がせる葬儀屋はろくなものじゃない。葬儀屋の言いなりに流されないように。

高齢化が進み親戚も高齢になり、葬儀の簡素化が進み、家族葬が増えている。家族葬には明確な定義はない。式は執り行わず火葬だけをする「直葬」は、経済的な問題で埼玉でも増えている。誰にも知らせず行う「密葬」は、火葬だけの場合もあれば、僧侶の読経はする場合もある。後日、お別れの会を行う場合もある。家族葬として同居家族だけで行う場合もあれば、親戚や親しい知人には知らせる場合もある。

共通しているのは、義理の儀式は辞退し、故人と親交のあった人たちだけで送りたいという思いだと考えられる。お金の問題もあり、できる範囲でいろんなやり方がある。葬式も大事だが、残された家族が生きて行くのも大事なので。

(このほか、お葬式の流れと注意したい点、お葬式の費用についてもお話しいただきました。)

佐藤さんのお話を受けて、参加者から自己紹介も含めて、質問や感想をいただきました。一部を紹介します。

- ・葬儀など一切母任せで生きてきた。現状が初めてわかった
- ・2年前にも葬式。葬儀費用が高いと思った。
- ・親族の葬儀が続いている。自分の時は「散骨してね」と娘に言っている。障害のある次女も、葬式に参加している。「アーメン？」と訊くので、「今日はアーメンじゃないよ」と答えたり。
- ・母の葬式のことはショックで覚えてない。
- ・田舎の母はきまり通りやってほしいと言うのでその通りにする。自分は残った人が好きにやっていいと思っている。
- ・墓は必要ないと思うが、法事の時に家族が集まるよりどころもほしいと思う。
- ・親戚の法事はいつも参加している。
- ・葬式も自分で企画する時代になり、そのサポートも必要だと感じた。
- ・田舎が山形なのでとんぼ帰りで法事に行った。
- ・搬送直後の打合せは避けよというお話はよくわかる。慌てて失敗したことがある。
- ・私は無宗教なので、少なくともこういう葬式にして子どもに言うとおこうかな。
- ・若い人にとって異次元の出来事のように思っている死を、自分たちのところに戻す意味をもっていると思った。
- ・母の葬式の時に、うちの工場で働いている障害者たちが皆で書いた文集がある。

葬儀のサポートは、今後地域にいつそう必要とされる仕事であることが、わかりました。こうした仕事の中でさまざまな障害者が共に働く機会をつくれぬか、佐藤さんと話し合っているところです。職場参加はまず自分たちの足元から、身の回りから。

埼玉県が 障害者雇用開拓・チャレンジ体験事業を実施中！

「週1hでも働きたい」、「施設利用しながら働きたい」

事業主の方へ  

障害者の方の短期訓練のお願い

短期訓練でこんなことがわかります！

- ★雇用経験がないので、訓練から受け入れてみたい
- ★障害者にやってもらえる仕事はなんだろう
- ★どこまで仕事ができるんだろう
- ★今雇用している障害者とは、異なる障害者について知りたい…etc

内容

- ① 費用は一切かかりません
- ② 訓練後に採用の必要はありません
- ③ 訓練時、傷害及び損害保険は当サポートセンターで加入します
- ④ 訓練期間は、3日～5日の短期です
- ⑤ 1件10,000円の奨励金を事業主に助成します(助成条件あり)
- ⑥ 訓練中は支援機関のサポートが入ります

内容

- ・障害者雇用経験のない事業主の方に訓練を通して障害者を理解してもらおう事業です。
- ・この事業は、埼玉県産業労働部就業支援課による「平成25年度 障害者雇用開拓・チャレンジ体験事業」として実施するものです。
- ・詳細については、埼玉県障害者雇用サポートセンターまでご連絡ください。

連絡先: 埼玉県障害者雇用サポートセンター
さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和合同庁舎別館1階
 048-827-0540(受付時間:月～金 8:30～17:00 祝日・年末年始は除く)
 E-mail koyou-support@bz03.plala.or.jp
<http://www.koyou-support.jp/> 

お問合せは、ホームページからも受け付けています。

障害者の方へ  

事業所での短期訓練のお誘い

短期訓練でこんなことがわかります！

- ★働くことにチャレンジしたいので、訓練から始めてみたい
- ★自分に合った仕事はなんだろう
- ★どこまで仕事ができるんだろう…etc

内容

- ① 費用は一切かかりません
- ② 訓練時、傷害及び損害保険は当サポートセンターで加入します
- ③ 訓練期間は、3日～5日の短期です
- ④ 1日1,000円の奨励金を助成します(助成条件あり)
- ⑤ 就労支援センター等に登録及び福祉施設利用の方
- ⑥ 訓練中での就職できるわけではありません

内容

- ・就職をめざす障害者のための短期訓練事業です。
- ・この事業は、埼玉県産業労働部就業支援課による「平成25年度 障害者雇用開拓・チャレンジ体験事業」として実施するものです。
- ・詳細については、埼玉県障害者雇用サポートセンターまでご連絡ください。

連絡先: 埼玉県障害者雇用サポートセンター
さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和合同庁舎別館1階
 048-827-0540(受付時間:月～金 8:30～17:00 祝日・年末年始は除く)
 E-mail koyou-support@bz03.plala.or.jp
<http://www.koyou-support.jp/> 

お問合せは、ホームページからも受け付けています。

埼玉県が今年度、画期的な事業を行っています。

働くことにチャレンジはしたいけど、どんな仕事合っているか、どのくらい仕事できるかわからないので、短期間試してみたいという障害者向けの3日～5日の訓練。

そして、障害者雇用の経験もない事業所や、障害者にやってもらう仕事があるかわからない、障害者がどのくらい仕事ができるかわからないという事業所が、試しに3日～5日の短期間、訓練を受け入れてみるという事業。

就労能力や雇用を前提とせず、その意思があればどんな障害者でも、どこの事業所でもやれます。

本人には1日1000円の奨励金が支給されます。また、訓練する人と同じ障害のある人

を雇った経験のない事業主には、1件1万円の奨励金が支給されます。訓練中は就労支援センター等がサポートします。

これまでの訓練制度は、基本的に週20時間～30時間以上の雇用をめざすものでした。この短期訓練も同じ目的で使えます。でもそれだけではありません。

ひきこもっていて、週1時間でもアルバイトをできればという人や、ふだんは日中活動に通っているが、週1日でも仕事があればやってみたい…もちろんそんな仕事があればの話ですが、その訓練をしてみることができるようです。

また、新たに人を雇うなんて、まして障害者?!アルバイトだってととてもとても…という多くの事業所が、短期の訓練だけ、サポート付きならと安心して仕事をさせてみるができます。(詳しくは当会にお問い合わせを)

グループワーク…働き方として 支え方として

当会が「グループワーク」と呼ぶ活動は、第一に地域の仕事を在宅・施設のさまざまな障害者が共同で遂行するという「もうひとつの働き方」です。また第二に、それぞれの障害者が個別の支援では得られない共同での社会体験を通して潜在的なパワーを活性化させ地域で生き・働く条件を自ら切り拓いてゆくという「もうひとつの支え方」でもあります。公益財団法人埼玉県公園緑地協会から業務委託を受け、県立しらこぼと水上公園で、世一緒のスタッフたちや施設・院内デイケアの参加を得て行っているグループワークは、こんな特徴があります。

もうひとつの働き方・支え方 その1



在宅の未就労者・離職者と施設利用者・職員のコラボを活かす

写真の中には、数施設のチームと世一緒からの参加者が入り混じっています。

世一緒にエントリーしている在宅の未就労者と離職中の人たちは、世一緒当番からの電話で仕事情報を得て、自力で現場に集合します。ここに就労支援センターから情報を得た施設等から、利用者と職員のチームが合流して、一緒に作業します。

日程が迫っている作業は在宅者中心になり、余裕をもった日程での作業は施設からの参加が増えます。毎月3～7回の水やりは2施設のチームが交替で行なっています。

もうひとつの働き方・支え方 その2

障害の種別・程度・(有無) ごちゃごちゃで働く



写真は、終了後、全員で行っている反省会。世一緒の在宅者たちは中学卒業後すぐ働いたり、高校や専門学校卒業も多く、障害のない人の中でがんばることを強いられてきた者が大半です。手帳もないひきこもりの人もいます。施設等とコラボして働くことを通して、初めて自分以外の障害者に出会う人もいます。施設等の利用者は<利用者VS職員>というチームでやってきますが、一斉作業の中で、在宅者や他施設利用者・職員の中に融合したり、チームに戻ったりしながら作業します。在宅者、施設利用者それぞれの中には、しゃがんで作業せず歩き回る人もいます。でも働きすぎて緊張する人は、ぶらついてる人がいると落ち着くんです。

もうひとつの働き方・支え方 その3

事業所の理解を得て職場に参加する



写真は、作業終了後、参加した障害者施設等の代表が、そろって管理事務所に報告に行く様子。「失礼します」とドアを

開けて入ってゆくのは、みなとても緊張します。報告を受ける職員さんにとっても、さまざまな障害のある人たちと直接やりとりするのは、やはり緊張されるようです。

なお、先日は本部の担当の方が、障害者たちと一緒に作業に参加されました。

作業現場はもちろん大事です。でも、事業所の方々とお互いに出会い、地域でいろんな人々が生きていることを感じ合うことも、とても大切なこと。

もうひとつの働き方・支え方 その4

ゆっくりと世間の風にあたる

次ページの写真は、先日の台風20号の余波

で小雨が降ったり止んだりの作業風景です。

「自分で現地集合」、「小雨決行」を原則にしています。「自分で」は「自力」の意味ではなく、誰かに送ってもらってもかまいません。



たまにはバスに乗ったり、カッパを着て働いてみませんか。

無理にがんばるのではなく、ゆっくりと世間の風にあたること。

うまくいかなければ、人の手を借りたり、助けてもらったりすればいい。

もうひとつの働き方・支え方 その5

働くことを糸口に生活と環境を組み立て直す

グループワークは、1回ごとに参加者を募ります。



生計を立てることからは程遠い仕事。その半面で、障害の程度、経験、能力等問わないので、さまざまな人々が集まります。ひきこもっ

てきた人、働いたことない人、差別や虐待の後遺症に悩む人…。無心に体を動かし、折にふれてことばを交わし、各自の生活と周りの環境をゆっくりと見渡し、生きた情報を得て、社会に踏み出してゆくきっかけとなる働き方があります。

報告

世一緒当番スタッフの竜巻現地調査レポート

おおぶくろの家しゅうへんをしゅざいにいってきました。ゆうきやスーパーのちゅうしゃじょうがたつまきにとばされたものがいっぱい、まだお店とかはしばらくできない話をしました。たばこ屋さんのおじさんに話をきいたら、すぐ近くを通ってる人がいたので、家の中のかたづけを手伝ってもらったそうです。私は、たばこさんの前にじどうはんばいきがあるので時々のみものを買ってますよと話をしました。(友野由紀恵)



写真上：竜巻が部屋の中の家具もひっくりかえり飛ばし、めちゃくちゃになったアパートが、友野宅のすぐ近くに。

写真右：友野宅の近所のたばこ屋さん。屋根半分の瓦が飛び、2階が竜巻でびっしょりに。一人暮らしなので、支援制度にも強い関心をもつ。

9月2日(火)14:00すぎ。国内最大級に近い竜巻が越谷を襲いました。全壊11世帯 半壊及び部分損壊1062世帯 車損傷26件 電柱倒れ33本。負傷者(9月3日現在)75人(重症3人 中等症2人 軽傷70人)。

当会関係者では、障害者宅で部分損壊が1件ありました。

世一緒当番スタッフで、竜巻の通りの近くに住む友野由紀恵さんが、当番の仕事の一環として、9月5日(金)に越谷市袋山の自宅の周りを巡回調査しました。

すぐご近所に壊れた建物がたくさんあったことにびっくりでした。



いままの暮らし

世一緒スタッフ 新井 孝治

私は最初は三十二才の時でした。

自衛官だったころ手のふるえがとまらなくなつて自衛官を退職しました。すぐに姉に紹介してもらつた所は順天堂越谷病院に行つて病院の手続をして三ヶ月間入院しました。薬を飲んでのどがすごくかわくようになつて水分をたくさん取るようになって入院の最初は六五キロしかなかった所三ヶ月で八十キロも増えてしまいました。

入院後自宅で減量に挑戦の食事のこんだてをつくつて自分で料理しました。野菜ととうふにしめました。あと近くのとうふ屋さんにおからをもらつてハンバーグみたくつくっていました。先生にくすりを變えてもらつてのどのかわきがなくなりました。減量は一週間で3キロおとす計画で1ヶ月で6キロおとして二月で二キロづつ体重を減量しました。結果は六六キロまでやせました。

二度目の入院は次女の兄さんお金をかしてしまい現金で二〇〇万円かしてしまいもどつてこないから父さんはしんぱいして、家中であばれて警察官に入り二度目入院しました。順天堂越谷病院に入院しました。六ヶ月も部屋からだしてもらえませんでした。

今は精神的にも安定しています。週に1回順天堂のデイケアにかよっています。週に一回金曜日にかよつてお菓子作りをしています。一〇人くらいです。つい最近では紅茶のムースを作りました。とても紅茶の香りとなめらかなクリームでつめたたくひやして食べました。今度は今週の金曜日はお菓子作りはメニューの話合いがあります。

月に一回外来があります。筋肉注射があります。注射をやめてほしいとたのんでも、先生はだめだよばかりでこまっています。現在は、1週間で火曜日当番やっています。

金曜日が来るのが楽しみで、まだ減量に挑戦しようと思つています。朝は犬の散歩一五キロあるきながら汗をかいています。

9月からは越谷の市民プールでウォーキングします。一キロのランニングを始めました。今暑いから朝の4時30分に起きてやっています。

両親もお母さんが障害1級で週に一回いこいの里に帰っています。父は、あいかわらず毎日ぼやいています。次女は一週間に一回帰ってきます。母のお風呂入れて行きます。次女のむすめ看護師して六月四日に子供が生まれました。

現在の体重は八八キロも有ります。またダイエツトのプログラムをつくつて減量に挑戦しようとおもっているしだいです。

精神科の病院にかようことに成り早十八年がすぎようとしています。デイケアにかよつて友人もふえてみんな声々な病気をかかえていることや同じ病気のこもいます。お互いに病気の話しをしたり作業所の仕事ないようとかきいて、一年前から世一緒にお世話に成り、一年がたとうとしています。みんなしんせつな人ばかりです。

今年の二月から火曜日の世一緒当番をやっています。お客様の対応をやったり電話番号をやったりしています。毎日が楽しくなりました。

母親が脳こうそくで右がだめになりそのかわりに僕が食事をつくっています。いままでは母親につくつてもらっていたのでその大変さがよくわかるようになりまし。

僕は社会に出る一步をふみだそうとしています。

平成二十三年の深夜に出きごとが始まりました。父が大きな声で私をおこして母がたおれて足が動かなくなり、すぐに市立病院に入院して四日で退院してすぐに天草病院に入院しました。四ヶ月入院してリハビリが大変でした。

私がお家の事やり家事をやりました。朝は早くおきて、せんとく物や食事をつくりました。母の大変さがわかりました。今は週に一回、いこいの里にいます。

父は認知症になり始めました、時間なんかいもきいてくるからおかしいと思つて工藤脳神外科で先生にみてもらいました。車運転はぜつたいに運転さしたらだめといわれて、父はおちこんでいます。昔はこわい存在感でしたが今ではまるくなりました。これからは、両親を大切にしていきたいとおもっています。

共に働く街を創るつどい2013

共に働く街づくり計画を考える (仮)

日時：2013年12月8日 (日)

13:00~16:30

会場：越谷市中央市民会館4F

第16~18会議室

もはや街づくり計画なしの支援では展望がもてない。さまざまな人々が分けられてゆく地域では。



ほわいし
ほしと

事業インフォメーションあれこれ
ページ。(左の絵は兵庫県のK. T.
さん作。メールでいただきました。)

▷本部事業 (職場参加ビューロー・世一緒よいしょ)

世一緒は未就労の障害者が電話番をしています

本部事業の拠点である「職場参加ビューロー・世一緒」は、専従職員がいません。月～金の10:00～16:00は、就労支援センターの利用者等の中から希望者を募り、職業体験の一環として、日替わりで電話番や掃除、来所者への説明、印刷・製本などの日常業務を担ってもらい、若干の謝金または実習手当を支給しています。

このほかにボランティアやアルバイトのサポーター、当事者ファシリテーターがいますが、いない時間もあります。世一緒に来所や電話をされる時は、お手数ですが、できるだけわかりやすい言葉で、短く、ゆっくりお話しただければ幸いです。

ここは公的機関ではなく当会のインフォメーションセンターです。ご予約なしで通りがかりにお立ち寄りいただいてもかまいません。要領を得ない説明をするかもしれませんが、お時間があればその都度ご質問いただきながら説明させていただければと思います。さまざまな人々が出会うための社会実験の場として開設しています。

●世一緒の活動にお試しで参加してみませんか

世一緒は、誰もが役割を分かち合ってくらす社会をめざして、仕事や社会参加にチャレンジする場です。当番のほかにも、求人広告を自分達でチェックしたり、商店街や工業団地に出かけて行って、職場見学をさせてもらったり、市民まつりなどに店を出したり、時々小さなアルバイトをしたりしています。毎日通う場ではなく、指導員もいません。先輩障害者や家族やその他のメンバーが、一定の応援はしています。利用料は不要。あなたも試しに参加してみませんか。

▷委託事業 (越谷市障害者就労支援センター)

越谷市障害者就労支援センターは職員の数が限られ、職場や関係機関へ訪問することも多いため、予めお電話をいただき、調整させていただければ、十分な時間をかけたお話ができます。特に下記のガイダンス、セミナーは事前に電話等でご連絡をお願いします。

●就労支援センターガイダンスは、10月10日(木)、11月6日(水)、12月11日(水)(いずれも10:00～12:00)に開かれます。また、セミナーは、10月16日(水)、11月14日(木)、12月14日(木)いずれも13:00～16:00)に開かれます。

ガイダンスでは、個別相談だけでは十分にお伝えしきれないセンターのさまざまな活用方法について、わかりやすくご説明します。そのときどきの旬の情報もお知らせします。

疑問・質問にもお答えしますので、何度でもご参加ください。

セミナーは、毎月テーマを決めて、ワークショップ形式で行います。

会場はいずれも原則、産業雇用支援センター4階です。



当会の目的

この法人は、地域の事業所、福祉施設、学校、在宅障害者と家族、市民に対して障害者の職場参加活動を啓蒙、普及、促進する事業を行い、障害者の多様な働きかたの実現をめざし、労働と福祉の障壁の解消を図るとともに、共に育ちあい、働きあい、暮らしあうまちづくりを通して、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)

当会の事業

- ・特定非営利活動に係る事業
- 職場参加の基盤形成のための支援事業
- ・福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業
- ・障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供に関する事業
- ・啓蒙と地域の輪を広げるための勉強会等を開催する事業
- ・国、自治体に対して施策を提言する事業
- ・協力事業所の開拓に関する事業 (定款第5条)

会員募集

障害者の職場参加をすすめる会では趣旨に御賛同いただける方を常時募集しています。

正会員

年会費 3,000円

賛助会員

個人年会費 3,000円

団体年会費 5,000円